

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 計画

学校名	伊万里市立大川内小学校
-----	-------------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・学校・家庭・地域が連携して児童の教育に携わり、全国PTA表彰、伊万里市教育委員会表彰を受けた。職員・保護者・児童・地域対象の教育に関するアンケート調査においても、それぞれに高い評価を得ることができた。 ・5年生はまとめのテストなどで全国平均下回っている。そのため現在、取り組み続けている朝のモジュール学習も継続させ、基礎基本の定着を図らなければならない。児童の実態を分析し、課題を明らかにした上で指導法の改善を図っていく必要がある。 ・いじめの認知、対応について、複数で対応することができた。これまで同様にいじめの未然防止、早期発見、早期解決に複数で取り組んでいく必要がある。 ・働き方改革の視点から、職員一人一人に超過勤務を削減する必要性の意識付けはできてきたが、その実現に向けた具体的な取り組み方の工夫を考える必要がある。	
--------------------------	---	--

2 学校教育目標	「笑顔で元気な大川内っ子」の育成 ～勉強することが楽しい 人とかがわることが楽しい いろんなことに挑戦して楽しい～	
----------	--	--

3 本年度の重点目標	・大運動会や150周年事業などを中心に、地域の協力を受けながら、地域の「人・もの・こと」と連携した教育活動を展開し、地域のよさを誇りに思い、成長していくことに喜びを感じる児童を育成する。 ・常にすべての児童が、基礎的・基本的な知識及び技能を習得することを意識した学習活動を展開する。また、校内研究を軸に、学ぶことの大切さを知り、学ぶことの楽しさを感じ、学びを深化させようとする児童の育成を目指す。 ・家庭や地域、専門機関との連携を図りながら児童の学習面や生活面の様子をしっかりと見取り、複数で対応していく。
------------	---

4 重點取組內容・成果指標	中間評價	5 最終評價	
---------------	------	--------	--

(1) 共通評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○基礎的・基本的な知識及び技能の習得 ○自分の考えをもち、考えを広げたり深めたりするための学びあい活動の充実	○全国及び県の調査やCRT検査で、全国、県の平均値を上回ることを目指す。 ○学びあい活動を校内研究の中心に位置づけ、取り組んでいく。		・校内研究教科の国語を中心に児童が自らの考えをもち、仲間との対話で学びを進化させる授業を意識し、取り組んでいく。 ・モジュール学習に確実に取り組み、基礎的・基本的な知識及び技能を身につける。		・		・		
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○90%以上の児童が、交流中、交流後にもつ感想において、誰もが交流した相手に対し、思いやりのある気持ちや相手を敬う気持ちなどを表現することができる。 ○いじめの未然防止、早期発見、早期解決に努める。 ○「学校が楽しい」と回答する児童の割合が90%以上を目指す。		・異学年交流である縦割り活動や特別支援学校との交流などを行う中で、相手を思う、思いやりや敬いの気持ちを育てる。 ・これまでも実施している月1回の「心のお天気アンケート」や普段の関りから、児童の学習、生活、友人関係等における悩みなどの把握に努める。 ・アンケート実施後、気になる児童についてはすぐに対応し、職員連絡会などで情報共有する。 ・家庭との連携を図るうえで、SCやSSWを効果的に活用していく。		・		・		
	●児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上		・委員会活動や係活動などの学校における活動全般において、意図的に児童が活躍する場を設定し、承認される場を設ける。 ・キャリアパスポートを活用し、各学期のめあて、教科や行事、体験活動と関連付けて作業を行う。		・		・		
	○明るいあいさつと返事、そしてあたかい言葉づかいで交流する児童の育成	○「明るいあいさつ」「元気な返事」ができる割合が、児童本人だけでなく、地域や保護者も80%以上にする。 ○「言葉づかいに気をつけている」と回答する児童が80%以上、地域や保護者の割合を70%以上にする。		・場に応じた言葉づかいやあいさつ、返事できるように全職員が共通認識のもと、日常的に指導する。 ・学級指導や道徳を中心に児童の実態に合わせて指導し、自分の生活に目を向けさせ、意識の向上を図る。		・		・		
	●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 ○望ましい生活習慣の形成	●健康に良い食事をしている児童80%以上 ○中学校のテスト期間に合わせ、「SNSを利用した動画視聴削減週間」を設け、守ることができた児童が80%以上 ○アンケートで「外で遊んだり運動したりするのが好き」と回答する児童が85%以上		・栄養教諭と連携し、低中学年を中心に食育の授業を実施する。 ・保健だより等で年間を通して食育を通じた健康づくりを呼びかける。 ・朝食喫食率を95%以上を目指す。 ・便利さだけでなく、スマートフォンなど情報機器の長時間使用等が心身へ及ぼす影響について指導する。削減週間を受け、アンケート調査を行う。 ・なかよしタイム(縦割り活動)や体育科の授業で運動に親しませ、体力の向上を図る。		・		・	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。		・金曜日を定時退勤日とし、定時退勤を推奨する。 ・平日は19時を目安、また、月45時間以上の超過勤務が生じないよう呼びかける。		・		・		
	○会議、事務の効率化	○会議の超過時間「0」を目指す。 ○会議資料や授業の教材等、校務サーバー内に置き、供覧することで効率化を図る。		・資料の事前配布、事前に読んでおくことの徹底、会議開始、終了時刻厳守の継続。 ・校務分掌や授業の教材等を校務サーバーに保存し、有効活用する。		・		・		
●特別支援教育の充実	○特別な配慮を要する児童に対する個別の支援計画、指導計画に基づいた支援	○職員会議や職員研修等で、特別な配慮を要する児童について共通理解を図るとともに、専門家の指導を通して理解を深める。		・特別な配慮を要する児童をリストアップし、丁寧に見取りを行う。 ・夏季休業中に専門家を招聘しての研修を行い、個別の支援計画、指導計画について見直しを行う。		・		・		

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○ふるさと学習の充実	◎地域の「人・もの・こと」とふれあい、そのよさを感じ、地域を大事にする心を育む教育	◎地域の「人・もの・こと」に愛着を持ち、大切にしていきたいと感じる児童を90%以上にする。	・田んぼの学校、各学年の発達に応じたふるさと学習、見守り隊の方とのふれあい等のよさに気づかせる。また、創立150周年行事を通してより地域を知ることのできる感謝の気持ちを育む。 ・コミュニティスクールを活用し、学校と地域が一体となった活動等に取り組み、郷土への誇りを培う。							
○危機管理の強化	○交通安全等の指導 ○情報モラルの指導	○「交通安全に気を付けている」と思う児童、「危険から身を守る能力が身に付いている」と思う保護者を80%以上にする。 ○情報モラルについて、十分に理解できている児童を90%以上にする。	・地域の見守り隊の協力も得ながら、交通ルールについての声かけを毎日実行。 ・交通教室、集団下校において、繰り返し、交通安全についての話を行う。 ・アンケートを実施し、児童のインターネット機器や環境についての実態を把握する。その結果を踏まえて、保護者と児童向けに情報モラル教室を行う。							

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育	
5 総合評価・次年度への展望	